

d) 安全衛生チェックシートによる方法

職場で実施している作業について安全衛生のチェックシートを作り、その中から危険あるいは有害なものを探し出し、対象になる要素を特定する方法です。

① 安全衛生チェックシートの作成

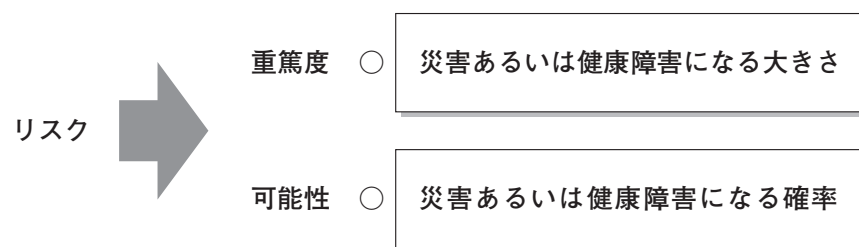
次に示す方法によって、チェックシートを作成します。

- 現在行われている作業の中から、特にけがや病気になるとと思われるものを取り出します。
- 取り上げた作業に対して、ステップ毎の行動を書きます。
- ステップごとの行動、動作の中にある安全衛生の急所を取り上げます。
- 安全衛生の急所の中で、特に危険、有害性の高い作業を特定します。

② リスクの見積もり

職場の巡視などで把握した作業や機械設備が持っている危険性や有害性を特定したならば、次の段階では、これらが源で、けがや病気になる可能性と災害と疾病障害の程度の大きさを推測することが必要で、それがリスクの見積もりになります。リスクの推測によって、改善措置の優先度を定めることができます。リスクを見積もる方法の主なものあげ、実施方法を次に説明します。リスクの構成、組み合わせを図7に示し、リスクの見積もりの主なものあげ、実施方法を説明します。

図7 リスクの構成・組み合わせ



a) マトリックスによる方法

災害危険の大きさであるリスクを、数学の行列を活用して結果を知るやり方をマトリックスによる方法と称し、例えば、横軸にけがや病気になった場合の大きさ、重篤度を大、中、小に並べ、縦軸に可能性の大、中、小を並べて行列マトリックスで中味のリスクの大きさは、それぞれ3、2、1になります。このリスクの大きさは任意に推定して、評価した数値です。マトリックスによる方法の例を、表2及び表3に示します。

表2 マトリックスによるリスクの見積もり例

	災害になった場合の重篤度		
	大	中	小
災害になる可能性			
大	3	3	2
中	3	2	1
小	2	1	1

○ 表中の3、2、1は災害リスクを示し、数値の多いほどリスクは高くなります。

表3 マトリックスによるリスクの見積もり例

		災害または疾病のひどさ			
		1	2	3	4
災害または疾病になる可能性					
1	I	I	I	I	
2	I	I	II	II	
3	I	II	II	II	
4	II	II	III	IV	
5	II	III	IV	IV	
6	III	IV	IV	IV	

- 表中のI、II、III、IVは災害、疾病のリスクを示し、数値の多いほどリスクは高くなります。
- 災害、疾病のひどさは、軽傷、休業、障害、死亡に置き換えても結構です。また、災害または疾病の可能性は、危険、有害作業の頻度あるいは発生の確率と考えてもよいかと思えます。

b) 加算式による方法

仕事の中にある危険、有害度の度合いを推測するもう一つの方法として、各々の程度を数値で示し、それらを合算してリスクを求める方法があり、実施方法が簡単で、推測の難しさが小さいため、多くの企業でこの方法が採用されています。例えば、災害のひどさ、重篤度を上げてみますと、ひどさを4段階に分け、軽傷、1ヵ月未満の休業事故、1ヵ月を超える事故及び死亡災害とし、それぞれに数値を与え、1、3、6及び10とし、また、災害が起こる可能性については、小さい、中程度、大きい及び特大とし、数値をそれぞれ1、2、4及び6とし、災害のひどさと可能性の数値を加えるか、ある